

# 分解して学ぶ 日本の武具

- 会 場 1階 松平家史料展示室
- 会 期 7月20日より9月19日まで  
(休館日)8月6・27・28日

刀剣や鎧兜など、長い歴史の中で独自の発展を遂げた日本の武具は、さまざまな職人の手仕事の結晶でもあります。今回はそれら武具を構成する「部分」に注目し、その美しさや、込められた技術にせまります。

## 刀を分解してみる

いろいろぬりさやうちがたなごしらえ  
蠟色塗鞘打刀拵 (越葵文庫)



日本刀は本体である刀身を鞘・鐔・柄などの「外装」におさめ、身につけます。これらを総称して伝統的に「拵(ごしらえ)」と呼びます。いろいろなデザインの「拵」があります。



- ①刀身  
刀の本体。拵とは別に保管することも多く、その場合は写真のように刀身をかたどった木製の「つなぎ」を納める。
- ②鞘 (さや)  
刀身を収納して保護しているカバーのようなもの。
- ③下緒 (さげお)  
鞘に付いている「栗形(くりかた)」という突起の孔に通してある組紐。刀を帯に差した時、帯から抜けないようにするための紐。
- ④笄 (こうがい)  
「髪搔き」。整えた髪の毛のほつれなどを直す道具。もとは竹製だったというが室町時代以降金属製のものが作られ、これに施された彫金が見どころの一つとなった。頭には「耳かき」も付いている。

### ⑤小柄小刀 (こづかこがたな)

刀の鞘に挿している小刀とその柄。通常、笄の反対側に装着している(拡大図)。ペーパーナイフのような道具。笄と同様、小柄にあしらわれる彫金の意匠が見どころになった。柄に装着した目貫とともに、笄・小柄・目貫の三点セットを「三所物(みところもの)」と呼んで意匠を統一し、拵のデザインをコーディネートしたり、これらを単体でコレクションの対象とすることも古くから行われている。

### ⑥鐔 (つば)

敵と刀を交えた時に、拳に傷を受けないよう保護するための金属製の板状の部品。西洋風に言えばナックルガード。形や材質、デザインに様々なものがあり、これも単体でコレクションの対象になっている。

### ⑦切羽 (せっぱ)

鐔の両側、柄と鞘に接するところにそれぞれ添えられている薄い金属の板。慣用句の「切羽つまる」はここからきている。

### ⑧目釘 (めくぎ)

柄にはめた刀身の茎(なかご)部分を固定するための留め具。柄と刀身にそれぞれ開けられている孔が合ったところを通して固定する。竹製のものが多いが、水牛角製のものもある。

### ⑨柄 (つか)

グリップ。木製だが外側に鮫皮(実はエイの皮)を貼りつけ、さらに滑らないようにするため組紐または革紐で特殊な巻き方(柄巻)をほどこす。表裏両側の中央部分には金工品の「目貫(めぬき=もともと目釘の役割を持っていたが、やがて装飾として装着されるようになった)」が巻き込まれる。また柄の元先両端にはそれぞれ「縁(ふち)」「頭(かしら)」という部品を装着するが、これも金工の技を凝らしたものが多く、見どころの一つ。

# よろいかぶとを分解してみる

きからちやいとおどしにまいどうぐそく  
 黄唐茶系威二枚胴具足 (福井市春嶽公記念文庫)

兜鉢 (かぶとはち)  
 一頭をまもる



古い形の吹返

吹返 (ふきかえし)  
 一もともと肩をまもるためにしころを大きく折り曲げたものだったが、小さくなって飾りのようにになっている。

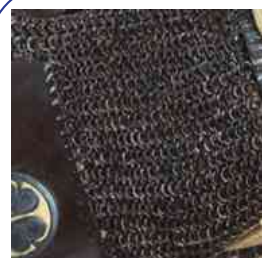
鍬 (しころ) 一首をまもる

面頬 (めんぼお)  
 一顔をまもる

袖 (そで)  
 一肩と腕をまもる

垂 (たれ)  
 一のどをまもる

胴 一胴体をまもる



細かい鉄の輪を手作業でつなぎ合わせて鎖にしている

籠手 (こて)  
 一腕をまもる。

手甲 (てこう)  
 一手をまもる

佩楯 (はいだて)  
 一ふともあたりをまもる

草摺 (くさずり)  
 一スカートのように広がって下半身をまもる

臙当 (すねあて)  
 一すねをまもる



鉄や革の板に漆を塗ってつくった小札(こざね)を、黄色いひも(威糸)でつないで、何枚も重ねてつくっている。



凝ったデザインの金具にも注目。

ギャラリートークやります。  
 (学芸員による展示解説)

7月22日(日)・8月12日(日)  
 8月26日(日)・9月9日(日)  
 各日とも午後2時より、40分程度。

【次回の展示】

明治150年・福井しあわせ元気国体開催記念  
 秋季特別展「皇室と越前松平家の名宝-明治美術のきらめき-」  
 平成30年9月22日(土)~11月4日(日)

展示解説シート No.116  
 平成30年7月20日発行  
 福井市立郷土歴史博物館  
 〒910-0004 福井市宝永3-12-1  
 電話 0776-21-0489  
 Fax 0776-21-1489  
 担当：松村知也  
 印刷/宮本印刷